

平成 22 年度 事務事業事後評価調書 (平成 21 年度事業)

整理番号 7 - 1

1 事務事業の表示

: 該当

事務事業名		放課後子どもプラン推進事業				
評価者	担当課名	児童センター		担当係名	児童センター係	
	管理職	職名	館長	作成者	職名	係長
		氏名	淡路至尊		氏名	斉藤智美
事業の概要	保護者が就労等により、昼間留守家庭となる主に小学校低学年を対象に、放課後の家庭にかわる生活の場・遊びの場を提供し健全育成を図る。				全体計画 (平成 20 年度 ~ 24 年度) 国・道支出金 13,530 千円 地方債 千円 その他 千円 一般財源 9,137 千円 事業費計 22,667 千円	
実施方法	直営	民間委託		その他 ( )		
第 5 期 総合計画 (前期)		登載事業	非登載事業	優先度	A	
事業の位置付け	政策目標	2 めくもり・雄武 ~ 保健・医療・福祉の充実 ~				
	基本施策	8 子育て・子育ての充実				
	単位施策	1 「子育て」支援の強化				
	事務事業の種類	自治事務	法定受託事務			
	その他計画・根拠等	次世代育成支援行動計画				
事業費	実施年度	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(見込)	23年度(計画)	24年度(計画)
	国・道支出金	2,146 千円	2,147 千円	2,669 千円	3,328 千円	3,328 千円
	地方債	千円	千円	千円	千円	千円
	その他財源	15 千円	10 千円	15 千円	千円	千円
	雄武町負担額 (一般財源)	1,037 千円	925 千円	2,725 千円	2,081 千円	2,081 千円
	合計	3,198 千円	3,082 千円	5,409 千円	5,409 千円	5,409 千円

281

2 事務事業の目的・内容 (Plan・Do)

【誰、何が(対象)】	保護者が就労等により、昼間留守家庭となる児童(小学生)。	望ましい指標(目的達成状況を最も端的に表す理論上の成果指標)			
【抱える課題やニーズは】	留守家庭児童の安全な居場所づくり。	開設日数、利用者数			
【どのような状態になることを目指したのか(意図)】	児童の学校終了後の安全確保と異年齢との関わりを通して自主性・社会性を養う。	児童クラブ年間開設日数	指標(指標計算式/解説)	目標年度	平成21年度
			目標値	306 日	
			実績値	307 日	
			達成度	100.3 %	
【その結果、どのような成果を実現したいか】 成果 = 目的	留守家庭児童の健全育成を図り、保護者の子育てと就労の両立を支援する。	児童クラブ年間利用者数	目標年度	平成21年度	
			目標値	9,000 人	
			実績値	9,646 人	
			達成度	107.1778 %	
内 容(どのような手段で何を行ったか)					
開設日・時間	開設日 月曜日 ~ 金曜日、休校日(土曜日・祝日・学校が特別に休みとした日) 時間 平日 授業終了後 ~ 17:30 休校日 8:00 ~ 17:30 お弁当対応				
安全確保	送迎・出欠確認等について保護者並びに小学校との連絡徹底を図る。				

### 3 事務事業の評価(Check)

(1) 事務事業の必要性(町民ニーズ・社会情勢に照らして妥当か、町が担う必要があるか、当該事務事業を実施しない場合の支障、既存事務事業との機能重複や見直しによる対応可能性)

必要 必要 / 概ね必要 / 課題あり	<input type="checkbox"/> 義務的なもの	登録児童数は年々増加しており保護者のニーズが増している。事業を実施しない場合児童の安全性が確保されず、保護者が安心して就労できない。
	<input type="checkbox"/> 全部 <input type="checkbox"/> 一部	

(2) 事務事業の有効性(期待する効果が得られたか)

有効 有効 / 概ね有効 / 課題あり	設定した目標値の達成状況	保護者が安心して就労に専念でき、子どもの安全対策が図られる。
	<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> ほぼ達成 <input type="checkbox"/> 下回る	

(3) 事務事業の効率性(コストに見合った効果が得られたか、計画上のコストを下げる工夫をしたか)

効率的 効率的 / 概ね効率的 / 課題あり	判断の理由	児童センターで実施することにより、無駄なく事業実施が可能である。
	<input type="checkbox"/> 事業費抑制 <input type="checkbox"/> 人員削減 <input type="checkbox"/> 時間短縮・作業軽減 <input type="checkbox"/> その他	

(4) 事務事業の公平性

公平 公平 / 概ね公平 / 公平でない	判断の理由	年間を通して町内全ての児童が利用できる。
	<input type="checkbox"/> 受益者負担がある <input type="checkbox"/> 受益者負担がない <input type="checkbox"/> 受益が一部に偏る <input type="checkbox"/> その他	

### 4 総合評価(A～D)

- A: 計画通り事業が進んでいる。目標が達成された。今後も計画通り事業を進めることが適当 等  
 B: ほぼ計画通りに進んでいるが目標に達成していない。事業の進め方に改善が必要 等  
 C: 当初の計画を達成できていない。事業規模、内容、実施主体等の見直しが必要 等  
 D: 事業効果が表れていない。事業の統合、休・廃止の検討が必要 等

自己評価(一次評価)	評価会議評価(二次評価)	町長評価(三次評価)
A	A	
共働き家庭増加に伴い、保護者が安心して就労ができ、児童の安全な居場所づくりを図る上でも計画どおり事業を進めることが適当と判断する。	同左	

<b>今後の展開方向</b> (Action)		
<b>継続 / 拡充</b>	<b>継続 / 拡充</b>	
登録児童数増加に伴い2クラブにし、これまで保護者の送迎にて受入れてきたへき地小学校児童の出迎えを行い、町内全ての児童が利用しやすいよう内容の充実を図る。	同左	
継続 / 現状維持又は拡充又は縮小又は統合又は内容の見直し・変更      終了      休止      廃止		

### 5 その他特記事項 (アンケート調査など外部評価を受けた場合は、その旨記入)

--